プレスリリース　ー 2020年6月22日(月)

# いま、世界に伝えたい５つのキーワード「独学」「発光」「友情」「ケア」「毒」

## 6/23(火)からオンラインチケットを発売

ヨコハマトリエンナーレ2020は、6月23日（火）10時からオンラインチケットを発売します。併せて、本展のみどころとなる作家・作品を紹介します。

2020年、私たちは新型コロナウイルス感染拡大という大きな困難に直面しました。
ヨコハマトリエンナーレ2020「AFTERGLOW一光の破片をつかまえる」には、こんな今だからこそみなさんとともに考えたいテーマが詰まっています。
アーティスティック・ディレクターであるラクス・メディア・コレクティヴは、展示の鍵となる重要な言葉をいくつかあげています。

**「独学」自らたくましく学ぶ。**
**「発光」学んで得た光を遠くまで投げかける。**
**「友情」光の中で友情を育む。**
**「ケア」互いを慈しむ。**
**「毒」世界に否応なく存在する毒と共存する。**

自分で考え、ひとを思いやる一 いずれも新型コロナウイルス流行下の私たちの経験を予見するかのような内容です。特に「毒」との共存という考え方は、コロナ後の世界を生きざるをえない私たちにとって示唆的です。
タイトルの「AFTERGLOW（アフターグロウ）」とは、ビックバンのあと宇宙に発せられ、今も私たちに降り注ぐ光のこと。時空を超えて広がる光をイメージします。
本展では、大切な光を自ら発見してつかみとる力と、他者を排除することなく、共生のための道をさぐるすべについて、みなさんと一緒に考えます。

■みどころとなる作家・作品

### ニック・ケイヴ　Nick CAVE

Photo by Sandro

1959年、ミズーリ州フルトン（アメリカ）生まれ、
シカゴを拠点に活動。
ロドニー・キング事件の無罪判決（1992年）をきっかけに起きた、ロサンゼルス暴動へのレスポンスとして制作された着脱可能な彫刻作品《サウンドスーツ》で知られる。鮮やかな色彩と豊かな装飾性を特徴とするケイヴの作品は、人種、ジェンダー、社会階級に基づく差別への問いを投げかける。

《回転する森》2016
©Nick Cave, Courtesy of the artist and Jack Shainman Gallery,
Photo by James Prinz

## ラヒマ・ガンボ
Rahima GAMBO

1986年、ロンドン（英国）生まれ、アブジャ（ナイジェリア） を拠点に活動。
写真や映像、ドローイングなどを用いたインスタレーションやパフォーマンスを手がける。近年は、ナイジェリア北東部および北部を拠点に活動するイスラム過激派組織ボコ・ハラムの脅威を生きのびた少女たちが、再び教育の機会を得て、学校で遊び心を取り戻していく様子をとらえたシリーズ「タツニヤ（物語）」で知られる。

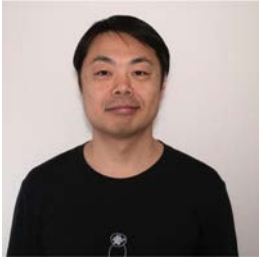
《タツニヤ（物語）》2017 ©Rahima Gambo

## インゲラ・イルマン
Ingela IHRMAN

1985年、カルマル（スウェーデン）生まれ、マルメ（同）を拠点に活動。
イルマンは、植物や生物をモチーフとして、工芸的な手法によって巨大なオブジェを制作、それらをシアトリカルな設定で配したインスタレーションにより、今日の自然環境と人間社会との関係に問いを投げかける。

《ジャイアント・ホグウィード》（部分）2016/2020
Photo by Sebastian Dahlqvist

## 岩井 優
IWAI Masaru



1975年、京都府生まれ、東京都を拠点に活動。
洗浄や清掃という日常行為に着目し、その背後にある社会的・記号的意味を顕在化するような映像やインスタレーション、パフォーマンスなどを発表。本展では、「エピソード」の一つとして、作家自身が作業員として定期的に携わった除染作業の経験を下敷きに、一般参加者とディスカッションし、清掃にまつわるアクション《彗星たち》を行う。

©Masaru IWAI, Courtesy of Takuro Someya Contemporary Art

## レーヌカ・ラジーヴ
Renuka RAJIV

1985年、チェンナイ（インド）生まれ、バンガロール（同）を拠点に活動。
他者とのコミュニケーション手段として制作されるラジーヴの作品には、セクシュアリティやジェンダー、家族という概念や、他者との関係性への言及を読み取ることができる。ドローイングや版画を主体に、近年ではアーティスト・ブック、同人雑誌、張り子やテキスタイルなど表現の手法を多様化させており、本展では横浜で制作する新作に近作を交えたインスタレーションを発表する。

《サイボーグは敏感》
2020
© Renuka Rajiv

## エヴァ・ファブレガス
Eva FÀBREGAS

Photo by Migue Barreto,
TEA Tenerife Espacio de las Artes

1988年、バルセロナ（スペイン）生まれ、ロンドンを拠点に活動。大型のソフト・スカルプチャーや鑑賞者の身体を包み込むようなインスタレーションを通して、人間の身体や欲望、情動が、産業デザインからどのような影響を受けるのかを探究している。

《ポンピング》2019

**世界の様々な地域から、若手作家が多数参加**
- **参加アーティスト：65組**
- **若さ、新鮮さ：1980年代、90年代生まれが35名　20代、30代が53%**
- **参加地域の多様さ：アジア31組、ヨーロッパ14組、中東8組、アフリカ4組、大洋州4組、北米1組、中南米2組　＊1組は未公表**
- **日本で初めて作品を発表する作家：34組**
- **新たに制作する作品＋すでに発表されたものを本展のために再構成する作品：46組**

**ヨコハマトリエンナーレ2020 チケット**　**＊詳しくはプレス資料７ページをご確認ください**

チケットは、日時指定の事前予約制です。
毎月１日午前10時（日本時間）に、翌月分のチケットを発売します。
6月23日（火）10時より、7月分のチケットを発売いたします。

| 一般 | 大学生・専門学校生 | 高校生 | 中学生以下 |
|---|---|---|---|
| 2,000円 | 1,200円 | 800円 | 無料（事前予約不要） |

**チケット購入方法**

**オンラインによる購入**
公式WEBサイトから購入できます。https://www.yokohamatriennale.jp

**会場窓口での購入**
オンラインチケットに空きがある場合は、横浜美術館、プロット48のチケット販売窓口で購入できます。（開場日のみ・閉場30分前まで）
※オンラインチケットをＡ４サイズの用紙にプリントアウトしてお渡しします。
※日本郵船歴史博物館、BankART Station、黄金町バザール2020会場内インフォメーションでは、チケットをご購入いただけません。

チケット情報はこちら

ヨコハマトリエンナーレ2020「AFTERGLOW—光の破片をつかまえる」
いま最も刺激あふれる現代アートは、横浜から世界へ

展覧会会期：2020年7月17日（金）～10月11日（日）
※開場日数78日、毎週木曜日休場（7/23、8/13、10/8を除く）
会場：横浜美術館、プロット48
アーティスティック・ディレクター：ラクス・メディア・コレクティヴ（Raqs Media Collective）
主催：横浜市、（公財）横浜市芸術文化振興財団、ＮＨＫ、朝日新聞社、横浜トリエンナーレ組織委員会
公式WEB ：https://www.yokohamatriennale.jp　　Twitter：@yokotori_

**【プレスリリースお問い合わせ】 ヨコハマトリエンナーレ2020広報事務局（株式会社プラップジャパン：横澤、本郷、増田）**
**E-MAIL : yokotori2020pr@prap.co.jp　　TEL 03-4580-9109**
**【横浜トリエンナーレ組織委員会 お問い合わせ】 横浜トリエンナーレ組織委員会事務局広報担当（高橋）**
**E-MAIL：press@yokohamatriennale.jp　TEL 045-663-7232（平日10:00～18:00）**

# 20 ヨコハマ トリエンナーレ
# 20 YOKOHAMA TRIENNALE
# AFTERGLOW
## 光の破片をつかまえる

## プレス資料

2020年6月22日

## ヨコハマトリエンナーレ2020に向けて

2020年、私たちは新型コロナウイルス感染拡大という大きな困難に直面しました。展覧会場に足を運び、実際の作品を見、多くの人々とよろこびを分かち合うことには価値がある。この大前提が崩れ、アート界は今までにない試練を経験しました。

こうした状況の中、私たちは世界のビエンナーレ、トリエンナーレの先頭を切ってヨコハマトリエンナーレ2020「AFTERGLOW－光の破片をつかまえる」を開催いたします。ここには、今だからこそみなさんとともに考えたいテーマが詰まっています。

アーティスティック・ディレクターであるラクス・メディア・コレクティヴは、展示の鍵となる重要な言葉をいくつかあげています。

「独学」　自らたくましく学ぶ。
「発光」　学んで得た光を遠くまで投げかける。
「友情」　光の中で友情を育む。
「ケア」　互いを慈しむ。
「毒」　世界に否応なく存在する毒と共存する。

いずれも新型コロナウイルス流行下の私たちの経験を予見するかのような内容です。特に「毒」との共存という考え方は、コロナ後の世界を生きざるをえない私たちにとって示唆的です。

今回のヨコハマトリエンナーレには、30以上の国や地域で活動する60人（組）以上のアーティストたちが参加します。20代、30代が半数を占める若い作家たちが、移動の禁止、物流の停止といった事態を乗り越えて展示を実現させます。ラクス・メディア・コレクティヴを含め、海外からのアーティストを招聘できない状況下で、オンライン・ミーティングを重ねながら初日を迎える今回のトリエンナーレは、私たちにとっても大きな挑戦です。

来館される方々にとって、このトリエンナーレが、作品に向き合い、新しい世界を予感するための豊かな実体験の場となることを願っています。

横浜トリエンナーレ組織委員会　副委員長
逢坂恵理子
蔵屋美香

# ヨコハマトリエンナーレ2020
# 「AFTERGLOW ー光の破片をつかまえる」

## 「AFTERGLOW」というタイトルをめぐって

名前には、たくさんの意味が込められています。何といっても、名前は物語の始まりを思い起こさせます。わかっていることといないことをたちまち浮き彫りにし、親近感を引き出し、愛情を招く合図となります。また、時間を超えていくものでなくてはなりません。

名前をつけるには時間がかかり、また時間が求められます。空間を共有することが困難な現在の環境のなかで、今回のトリエンナーレに名前をつけるとするならば、どこにでも浸透するような名前が求められる一方で、トリエンナーレのプロセスに持ちこまれる多数で多様な存在の個別性を濁らせて見えにくくしてしまうような圧倒的な力を持つものは回避されなければなりません。このトリエンナーレはテーマをつけることを前提としない取り組みを進めており、またアーティストや一般の人々を巻き込んで、予測のつかない発見、驚き、洞察を前提とした出合いを生み出そうと試みています。そうしたこともあって、私たちラクスが求める名前は、何かを確定する力は弱くとも、泡のごとく生まれては消えるような生き生きとした興奮に満ちた名前を求めていたのです――楽しさ、魅力、冒険、謎に満ちた名前を。

こうしたことを念頭に置いて、私たちは「AFTERGLOW」というタイトルを提案することにしました。それは、光の間隔、輝くような期待、ゆらめく光の流れ、存在と生成の茂みの間を流れるエネルギー、といったものを表しています。

「AFTERGLOW」というタイトルのもとで行われるトリエンナーレは皆さんを、深い探求と予兆が示すゆらめく輝きの中へとお誘いします。そこでは、まだ起こっていないことやこれから起こることを期待したり予測したりすることと、じっくり考えぬくことや主張を押し通そうとすることとが混ざり合います。皆さんには、抑制を忘れ、見知らぬものとの出合いから生まれる鮮烈な喜びを見つけていただければと思います。

このトリエンナーレでは、アートは、気まぐれで、人を戸惑わせるようなゲームに興じます。最近、ますます認知されるようになっている非人間（ノン＝ヒューマン）と楽しげに親しみをかわし、集団の総意と個人の信念の物語を思い起こし、よく知られたさまざまな力が増減するところを観察し、私たちを毒性への恐怖に立ち向かわせようとします。

ときにそのアートは、私たちを爆発のもたらす発散物の中へ誘うこともあるでしょう。また深海に潜む生命の存在を示す生物発光という信号となることもあれば、ほかの場所では、友情の輝きとなり、ケアのぬくもりとなり、あるいは独学者の目の中にある直観のひらめきとなるのです。

横浜美術館とプロット48を「茂みを発生させる拠点」と考えてみてください。精神と想像力の生





Photo: KATO Hajime

**ラクス・メディア・コレクティヴ**
（ヨコハマトリエンナーレ2020 アーティスティック・ディレクター）

物学的多様性のための臨時避難（シェルター）所なのだと。私たちが「社会的距離」という新しい語彙を学び始めたまさにこの時期に、茂みのことを考えてみてほしいのです――それはパンデミックが広める排他的原則とはまさに正反対のものです。密度、没入、絡み合いといったイメージが頭に浮かびます。茂みの中を歩き回っているときに警戒心が高まるさまについて考えてみるのも面白いでしょう。そうしたときには、時間を経験する速度は遅くなります。変容した時間の経験は、共感というかたちをとることもあります。それは思いやりと同じくらい、他人に伝染（うつ）りやすいものです――そんなときには、接触や接触を認識している状態は、その伝染りやすいものを追放するようなこともなく、安全な状態へと戻るための鍵となります。それは、さまざまなかたちや性向をもつ生命を歓迎しているのです。

今回のヨコハマトリエンナーレ2020は、私たちの多様な世界にある多様な流れを誠意をもって受け入れる態度を示します。その最初の瞬間から皆さんに、世界が液体でできている状況をお見せいたしましょう。確実とされる事態への思い込みを溶かし、ぼやけさせ、また周縁を中心として踊らせましょう。そこでは手つかずの自然はもはや文明に対立するものではなく、文化的倫理にありがちな偏狭さは公然と無視されるのです。

「AFTERGLOW」では、空間を思考と感情の複雑なダイアグラムへと変えるような作品を展示します。それは古代のものと濃厚に接触し、時間に身体をこすりつけながら、不確かな未来を見きわめます。破壊された古代遺跡のかけらをつなぎ合わせて、不思議な物体を復元します。またそれは、異国の温室に育つ巨大な花のように咲き誇ります。不死を求める中に生命を欲求し、その結果桁違いに大きな宇宙に目を向けることを強います。困難な愛に向ける熱情を廃墟と化した病院の中に見出す一方で、植物（フローラ）や動物（フォーナ）のエロティシズムに対する興味を隠しません。

私たちは、この喧騒と静寂の、加速と迂回の織りなす茂みを歩き回ることで時間の経験が変容してしまうことを、アーティストや仲間たちともどもお約束いたします。この茂みに入るためのチケットは、幾重にも重なり密度の高い時間を想像しつつ、一見それほど重要ではないものにも注意を払うような時間を共有する機会に皆様をお誘いするためのものです。

それは、自らの光を持って、濃密な流れの中で輝く方法を見つけます。

「AFTERGLOW―光の破片をつかまえる」は、21世紀にアートを作り続けることの意味に光を当てます。

[須川善行 訳]

## YOKOHAMA TRIENNALE 2020
## *AFTERGLOW*

A name holds so much within it. After all, it evokes scenarios, it conjures the known and the unknown, it draws affinities, it gestures to affections, and it has to travel in time.

A name takes time, and asks for time. In a milieu that challenges our abilities and capacities to be together, the Triennale needed a name that could permeate everywhere, and yet not become a sole force muddying the multiple and diverse presences brought into the Triennale process. With the post-thematic move that this Triennale is working with, and with its attempts to bring in artists and publics into an encounter that is premised on unpredictable discoveries, surprises and discernment, we, Raqs, wanted a name that was low on determinacy but was full of living effervescence — with all it's joys, charms, hazards, and mysteries.

With this in mind we proposed the title "Afterglow" a luminous interval, a glowing anticipation, a lambent flow, a charged current of energy between thickets of presence and becoming.

"Afterglow" invites you to be in proximity to the radiant, fluctuating glow of probes and premonitions, blending anticipation and projection with the calmness of rumination and the pugnacity of assertion. It invites you to lose your inhibitions, and find a vivid joy that can come with meeting the unfamiliar.

Here art plays whimsical and yet disorienting sport; it intimates a playful ease with the growing recognition of non-humans; it recalls histories of collective will and individual obstinacy; it observes variations of known forces, and it draws us closer to confront the fear of the toxic.

Sometimes it invites us to be inside the aura of an explosion; somewhere it is the bioluminescent semaphore that signals life in the depths of the ocean; elsewhere it is the radiance of friendship, the glow of care, or the sparkle of sentience in the eyes of an autodidact.

Imagine the Yokohama Museum of Art, and the Plot 48 as 'thicket hosts': temporary shelters for the biological diversity of the mind and the imagination. In these times, when we have begun to learn a new vocabulary of 'social distance', think of a thicket — the very opposite of the exclusionary principle that a pandemic unleashes. It brings to mind an image of density, immersion, and entanglement. It is also interesting to think about the state of alertness the mind enters into while navigating a thicket. It slows the experience of time. A transformed experience of time can bring forth a form of compassion that is as caring as it is contagious — where contact, and a state of awareness about being in contact, is the key to a return to safety, without the fear of banishment of the contagious. It is welcoming of different forms and propensities of life.

This edition — Yokohama Triennale 2020 — is deliberately hospitable to the diverse currents of our diverse world. From it's very first moment it will cajole people to see the world as made of liquid states, dissolving and blurring our hold on fixed certainties, making edges dance as centers, where wilderness is not opposed to civilization, and where there is a defiance to the assumed insularity of cultural ethics.

"Afterglow" presents works that turn space into complex diagrams of thought and feeling. It comes into close contact with the ancient, rubbing against time to discern untested futures. It reconstructs objects of wonder by piecing together the broken shards of archaeological remains. It blooms like a giant flower in an alien greenhouse. It finds desire for life in its search for immortality, and enjoins incommensurable cosmologies. It locates resources for difficult love in an abandoned hospital, even as it wonders on the eroticism of flora and fauna.

We promise, along with our artists and companions, that in navigating this thicket of clamor and silence, acceleration and detour, the experience of time will be altered. The ticket to this thicket is an invitation to a shared time of alertness to minor notes, along with a reverie in populous folds of time.

It finds a way to glow at dense currents, bearing its own light.

"Afterglow" lights up an awareness of what it means to keep making art in the twenty-first century.

Raqs Media Collective





## ヨコハマトリエンナーレ2020
## 「AFTERGLOW ー光の破片をつかまえる」

### 展覧会という「茂み」について

Photo: KATO Hajime

**木村 絵理子**
**（ヨコハマトリエンナーレ2020 企画統括）**

ヨコハマトリエンナーレ2020「AFTERGLOW ー光の破片をつかまえる」は、展覧会とともに、それが開催される土地や時間、さらに表現領域から解放し、拡張させる試みとしてのエピソード（註※）を併せて開催するものであり、ここでは主に展覧会で発表される作家・作品の特徴を紹介します。

目下、かつてない不安定な状況下での準備を余儀なくされているヨコハマトリエンナーレ2020に向けて、まるで今の状況を予見するかのようにラクス・メディア・コレクティヴが提示したタイトルは、あらゆる物事が複雑に絡み合う世界の中で、思考と知恵の「茂み」の中に流れるエネルギーと、それを自らの手でつかみとろうとする行為を象徴する「光の破片＝AFTERGLOW」という言葉です。これは、2019年11月に発表された5つのテキストからなる「ソース」から導き出されたものであり、そこには、人間の探究心や独学で得られた知識、友情や他者への思いやり、有毒なものとの共生といった、既成のヒエラルキーに囚われない価値観が込められています。

では今回発表された参加アーティストたちの作品は、具体的にどのような形で展覧会という「茂み」を形成するのでしょうか。

例えばある一群の作品は、過去に発生した何らかの事象に注目します。その多くは、作家自身やその家族、身近な人たちが体験した出来事に端を発し、そこから世界の歴史や政治だけでなく、科学や医療、生態系の未来など、柔軟かつ自由に思考を拡げ、それぞれの作品世界を展開していきます。またある作品群では、人間の身体がモチーフとなります。身体の脆弱さや他者からの制御。既成の記号的意味を持つ身体が、異なる文脈の中でどのような意味を持ちうるのか。あるいは、また別の記号的意味と合体して変容する場合など、身体そのものの特性やその意味の多様性が提示されます。そしてまた別の作品では、人間の知覚とその認識のメカニズムに目を向けて、私たちが理解している世界というものが、いかに私たちの知覚との相対的関係性の中で成立する、移ろいやすさの内にあるのかを気づかせてくれます。

新型コロナウィルスの世界的流行によって顕在化したのは、その毒性以上に、情報への不信と過信、不確定な未来や他者への恐怖となっているようです。目の前の危機が過ぎ去った時、恐怖の記憶は澱のように人々や社会の其処此処に残っていくかもしれません。こうした世界の中で生き延びていくためには、人間社会のみならず生態系全体の多様性を認め、それぞれが自立して、光を放つように存在することが今まで以上に重要な意味を持ってくるでしょう。ヨコハマトリエンナーレ2020は、現代アートを通じて、私たちそれぞれが不確かな未来への一歩を踏み出す「光をつかまえる」力について考える機会となることを目指します。

※エピソードの参加アーティストについては、その一部をP.5の作家リストで発表しています。

# 参加アーティスト一覧（計65組）

| アーティスト名（日）※1 | アーティスト名（英）※1 | 生没年 | 会　場 | 新作 ※2 | 日本初発表 ※3 |
|---|---|---|---|---|---|
| ハイグ・アイヴァジアン　◆ | Haig AIVAZIAN　◆ | 1980 | プロット 48 | ○ | ○ |
| ファラー・アル・カシミ | Farah AL QASIMI | 1991 | プロット 48 | ○ | ○ |
| モレシン・アラヤリ | Morehshin ALLAHYARI | 1985 | 横浜美術館 | | |
| ロバート・アンドリュー | Robert ANDREW | 1965 | 横浜美術館 | ○ | ○ |
| 青野文昭 | AONO Fumiaki | 1968 | 横浜美術館 | ○ | |
| 新井 卓 | ARAI Takashi | 1978 | 横浜美術館 | ○ | |
| コラクリット・アルナーノンチャイ | Korakrit ARUNANONDCHAI | 1986 | プロット 48 | ○ | |
| ローザ・バルバ | Rosa BARBA | 1972 | 横浜美術館 | | |
| タイスィール・バトニジ | Taysir BATNIJI | 1966 | 横浜美術館 | | ○ |
| イシャム・ベラダ　◆ | Hicham BERRADA　◆ | 1986 | プロット 48 | ○ | ○ |
| ニック・ケイヴ | Nick CAVE | 1959 | 横浜美術館 | ○ | ○ |
| チェン・ズ（陳 哲） | CHEN Zhe | 1989 | 横浜美術館 | ○ | |
| ジェシー・ダーリング | Jesse DARLING | 1981 | 横浜美術館 | ○ | ○ |
| マックス・デ・エステバン | Max DE ESTEBAN | 1959 | 横浜美術館 | | ○ |
| エヴァ・ファブレガス | Eva FÀBREGAS | 1988 | 横浜美術館 | ○ | ○ |
| マリアンヌ・ファーミ | Marianne FAHMY | 1992 | 日本郵船歴史博物館 | ○ | ○ |
| アリア・ファリド | Alia FARID | 1985 | 横浜美術館 | | ○ |
| ファーミング・アーキテクツ | Farming Architects | 2017 設立 | プロット 48 | ○ | ○ |
| イヴァナ・フランケ　◆ | Ivana FRANKE　◆ | 1973 | 横浜美術館 | ○ | |
| ラヒマ・ガンボ | Rahima GAMBO | 1986 | プロット 48 | | ○ |
| ズザ・ゴリンスカ | Zuza GOLIŃSKA | 1990 | 横浜美術館 | ○ | ○ |
| アンドレアス・グライナー | Andreas GREINER | 1979 | プロット 48 | ○ | |
| インティ・ゲレロ　◆ | Inti GUERRERO　◆ | 1983 | 横浜美術館 | ○ | ○ |
| ニルバー・ギュレシ | Nilbar GÜREŞ | 1977 | 横浜美術館 | | ○ |
| ティナ・ハヴロック・スティーヴンス | Tina HAVELOCK STEVENS | — | プロット 48 | | ○ |
| ジョイス・ホー（何 采柔） | Joyce HO | 1983 | プロット 48 | ○ | |
| インゲラ・イルマン | Ingela IHRMAN | 1985 | 横浜美術館 | ○ | ○ |
| 飯川雄大 | IIKAWA Takehiro | 1981 | プロット 48 | ○ | |
| 飯山由貴 | IIYAMA Yuki | 1988 | 横浜美術館 | ○ | |
| 岩井 優　◆ | IWAI Masaru　◆ | 1975 | 横浜美術館 | ○ | |
| 岩間朝子 | IWAMA Asako | — | 横浜美術館 | ○ | |
| 金氏徹平 | KANEUJI Teppei | 1978 | 横浜美術館 | ○ | |
| 川久保ジョイ | KAWAKUBO Yoi | 1979 | プロット 48 | ○ | |



2020 ヨコハマトリエンナーレ YOKOHAMA TRIENNALE AFTERGLOW 光の破片をつかまえる

| アーティスト名（日）※1 | アーティスト名（英）※1 | 生没年 | 会　場 | 新作 ※2 | 日本初発表 ※3 |
|---|---|---|---|---|---|
| レボハング・ハンイェ | Lebohang KGANYE | 1990 | 横浜美術館 | ○ | ○ |
| キム・ユンチョル | KIM Yunchul | 1970 | 横浜美術館 | ○ | ○ |
| エレナ・ノックス | Elena KNOX | — | プロット 48 | ○ | |
| ラウ・ワイ（劉 衛） | LAU Wai | 1982 | プロット 48 | | |
| ラス・リグタス | Russ LIGTAS | 1985 | プロット 48 | ○ | |
| メイク・オア・ブレイク（レベッカ・ギャロ＆コニー・アンテス） | Make or Break (Rebecca GALLO & Connie ANTHES) | 1978/1985 | 横浜美術館 | ○ | ○ |
| タウス・マハチェヴァ | Taus MAKHACHEVA | 1983 | 横浜美術館 | ○ | ○ |
| カベロ・マラッツィ　◆ | Kabelo MALATSIE　◆ | 1987 | — | ○ | ○ |
| ナイーム・モハイエメン | Naeem MOHAIEMEN | 1969 | プロット 48 | ○ | |
| ジェイムス・ナスミス | James NASMYTH | 1808-1890 | 横浜美術館 | | |
| パク・チャンキョン | PARK Chan-kyong | 1965 | 横浜美術館 | | |
| アモル・K・パティル | Amol K. PATIL | 1987 | プロット 48 | ○ | ○ |
| アリュアーイ・プリダン（武 玉玲） | Aluaiy PULIDAN | 1971 | プロット 48 | | ○ |
| レーヌカ・ラジーヴ | Renuka RAJIV | 1985 | 横浜美術館 | ○ | ○ |
| オスカー・サンティラン | Oscar SANTILLAN | 1980 | 横浜美術館 / プロット 48 | ○ | ○ |
| サルカー・プロティック | SARKER Protick | 1986 | 横浜美術館 / プロット 48 | ○ | ○ |
| 佐藤雅晴 | SATO Masaharu | 1973-2019 | 横浜美術館 | | |
| さとうりさ | SATO Risa | 1972 | 横浜美術館 / プロット 48 | ○ | |
| レヌ・サヴァント | Renu SAVANT | 1981 | プロット 48 | | ○ |
| ツェリン・シェルパ | Tsherin SHERPA | 1968 | 横浜美術館 | | ○ |
| 新宅加奈子　◆ | SHINTAKU Kanako　◆ | 1994 | — | ○ | |
| エリアス・シメ | Elias SIME | 1968 | 横浜美術館 | | |
| レイヤン・タベット | Rayyane TABET | 1983 | 横浜美術館 | | ○ |
| 竹村 京 | TAKEMURA Kei | 1975 | 横浜美術館 | ○ | |
| 田村友一郎　◆ | TAMURA Yuichiro　◆ | 1977 | — | ○ | |
| デニス・タン（陳 文偉）　◆ | Dennis TAN　◆ | 1975 | プロット 48 | ○ | |
| アントン・ヴィドクル　◆ | Anton VIDOKLE　◆ | 1965 | プロット 48 | | |
| オメル・ワシム＆サーイラ・シェイク | Omer WASIM & Saira SHEIKH | 1988/1975-2017 | 横浜美術館 | ○ | ○ |
| ミシェル・ウォン　◆ | Michelle WONG　◆ | 1987 | — | ○ | ○ |
| ランティアン・シィエ　◆ | Lantian XIE　◆ | 1988 | 横浜美術館 | ○ | ○ |
| ジャン・シュウ・ジャン（張徐 展） | ZHANG XU Zhan | 1988 | 横浜美術館 | ○ | |
| ジェン・ボー（鄭 波） | ZHENG Bo | 1974 | プロット 48 | | |

計65組（2020年6月現在）

※1　◆：エピソード参加アーティスト 12組
※2　ヨコハマトリエンナーレ2020のために新しく制作する作品、すでに発表されたものを本展のために再構成する作品 46組
※3　日本で初めて作品を発表する作家 34組

# チケット情報

チケットは、日時指定の予約制です。 オンラインでチケットをご購入の上、ご来場ください。

## ヨコハマトリエンナーレ2020チケット

| 一般 | 大学生・専門学校生 | 高校生 | 中学生以下 |
|---|---|---|---|
| 2,000円 | 1,200円 | 800円 | 無 料（事前予約不要） |

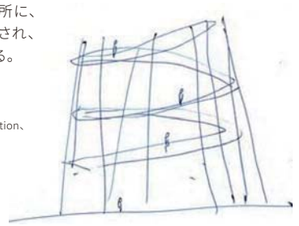
## 横浜アート巡りチケット

「BankART Life Ⅵ」「黄金町バザール2020」も一緒に楽しめて1,200円もお得！

| 一般 | 大学生・専門学校生 | 高校生以下 |
|---|---|---|
| 2,800円 | 2,000円 | BankART、黄金町は無料<br>ヨコトリ2020は上記金額です |

### BankART Life Ⅵ　都市への挿入

超高層ビルが林立する、みなとみらい21地区。その結節点の数か所に、川俣正の巨大な構築物が挿入され、新たなネットワークが生まれる。



会期：2020年9月11日(金)〜10月11日(日)
会場：みなとみらい21地区、BankART Station、R16 Studio
主催：BankART1929
料金：単独パスポートは1,000円（税込）
お問い合わせ：045-663-2812
info@bankart1929.com
www.bankart1929.com

### 黄金町バザール2020 ― アーティストとコミュニティ

京急線高架下周辺に広がる街を舞台に、43組のアーティストが作品を展示。アーティストとコミュニティの関係、その可能性について問いかける。

会期：2020年9月11日(金)〜10月11日(日)
会場：初黄・日ノ出町地区（黄金町エリア）
主催：黄金町エリアマネジメントセンター、初黄・日ノ出町環境浄化推進協議会
料金：単独パスポートは1,000円（税込）
お問い合わせ：045-261-5467
info@koganecho.net
www.koganecho.net

- ヨコハマトリエンナーレ2020チケットで、横浜美術館、プロット48、日本郵船歴史博物館に入場できます。
- 横浜美術館への入場は日時指定が必要です。
  プロット48は、【横浜美術館と同日に限り】お好きな時間にご入場いただけます（ただし入場は閉場の30分前まで）。
- 日本郵船歴史博物館では、出品作家マリアンヌ・ファーミの作品が展示されています。チケット提示で横浜美術館の日時指定にかかわらずお好きな日時に入館いただけます。開館日・時間は、横浜美術館、プロット48とは異なります。同博物館WEBサイト（https://museum.nyk.com/）をご覧ください。
- 横浜アート巡りチケットを購入された方は、９月11日（金）から10月11日（日）までに、BankART Station、黄金町バザール2020会場内インフォメーションにて、チケットを提示の上、「BankART Life VI」、「黄金町バザール2020」の会期中有効なパスポートをそれぞれお受け取り下さい。
- いずれのチケットも障がい者手帳をお持ちの方と介護の方１名は無料です。（事前予約不要）
- 団体受入れ及び団体割引はおこなっておりません。

## チケット購入方法

毎月１日午前 10 時（日本時間）に、翌月分のチケットを発売します。※７月分のみ６月 23 日 10 時に発売します。

### オンラインによる購入

公式 WEB サイトから購入できます　https://www.yokohamatriennale.jp

### 会場窓口での購入

オンラインチケットに空きがある場合は、横浜美術館、プロット 48 のチケット販売窓口で購入できます。（開場日のみ・閉場 30 分前まで）
※日本郵船歴史博物館、BankART Station、黄金町バザール 2020 会場内インフォメーションでは、チケットをご購入いただけません。

チケットに関する詳細は、公式ＷＥＢサイト「チケット・アクセス」情報をご確認ください。
URL：https://www.yokohamatriennale.jp/2020/ticket/

### お問い合わせ先

［ハローダイヤル］050-5541-8600（全日 8:00-22:00）





# 新型コロナウイルス感染症対策

## 来場者の感染予防

- 入場にあたり、マスクの着用、こまめな手洗い・消毒、体温測定、来場者同士の距離の確保へのご協力をいただきます。
- 発熱等の風邪の症状がある方、体調がすぐれない方のご来場をお控えいただきます。
- 会場入口にサーモグラフィーを設置し、37.5℃以上の発熱がある場合は、入場をお断りします。

## 会場内の感染予防

- 日時指定予約チケットを導入し、来場者同士の距離を保てるよう入場制限を行います。
- 会場内の換気を行うほか、手が触れる場所の消毒を常時巡回して実施します。
- 2m間隔を目安にフロアマーカー等を設置し、来場者同士の距離を確保します。

## スタッフの感染予防

- スタッフ全員が、検温と体調チェックを行います。
- マスクやフェイスシールド、手袋の着用等、適切な防護対策を講じます。

皆様に安心してヨコハマトリエンナーレ2020を楽しんでいただけるように準備を進めてまいります。

# アクセス

## 横浜美術館

横浜市西区みなとみらい 3-4-1

みなとみらい線（東急東横線直通）みなとみらい駅〈3番出口〉からマークイズみなとみらい〈グランドガレリア〉経由徒歩3分
JR（京浜東北・根岸線）および横浜市営地下鉄（ブルーライン）桜木町駅から〈動く歩道〉利用、徒歩10分

Photo: KASAGI Yasuyuki

## プロット48

横浜市西区みなとみらい 4-3-1

みなとみらい線（東急東横線直通）新高島駅〈2番出口〉から徒歩7分
横浜市営地下鉄（ブルーライン）高島町駅〈2番出口〉から徒歩7分

Photo: KATO Hajime

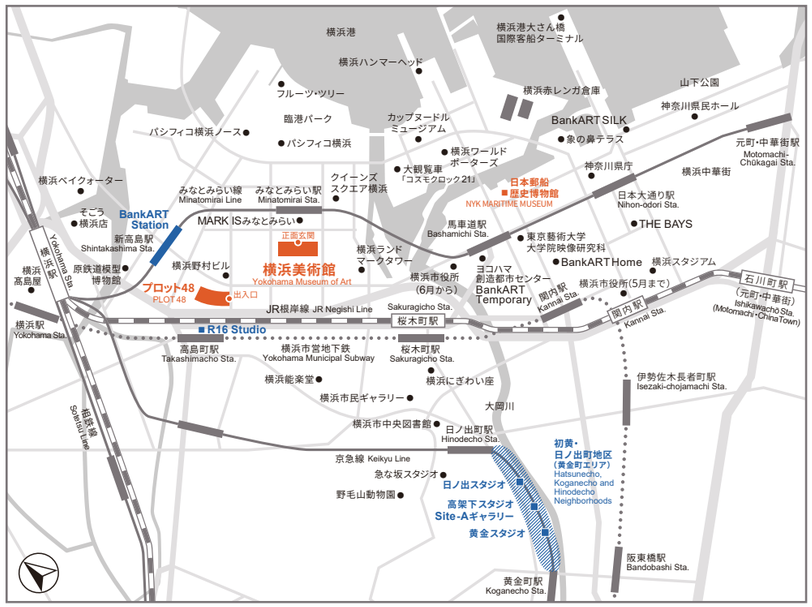
## 日本郵船歴史博物館

横浜市中区海岸通 3-9

みなとみらい線（東急東横線直通）馬車道駅〈6番出口〉から徒歩2分
JR（京浜東北・根岸線）「関内駅」〈北口〉から徒歩8分または桜木町駅から徒歩12分

# 開催概要

| | |
|---|---|
| タイトル | ヨコハマトリエンナーレ2020「AFTERGLOW－光の破片をつかまえる」<br>Yokohama Triennale 2020 “Afterglow” |
| アーティスティック・ディレクター | ラクス・メディア・コレクティヴ |
| 展覧会会期 | 2020年7月17日(金) ー 10月11日(日)<br>木曜日休場（7/23、8/13、10/8を除く）、開場日数78日 |
| 会場 | 横浜美術館　横浜市西区みなとみらい3-4-1<br>プロット48　横浜市西区みなとみらい4-3-1<br>＊下記会場でも作品の展示がございます。<br>日本郵船歴史博物館　横浜市中区海岸通3-9 |
| 開場時間 | 10:00-18:00<br>※10/2（金）、10/3（土）、10/8（木）、10/9（金）、10/10（土）は21:00まで開場<br>※会期最終日の10/11(日)は20：00まで開場 |
| 主催 | 横浜市、公益財団法人横浜市芸術文化振興財団、ＮＨＫ、朝日新聞社、<br>横浜トリエンナーレ組織委員会 |








# 支援／特別協力／後援／協賛／協力／助成／アーティスト支援／認証

［支援］　文化庁（国際芸術フェスティバル支援事業）

［特別協力］　独立行政法人国際交流基金、独立行政法人都市再生機構

［後援］　神奈川県、神奈川新聞社、tvk（テレビ神奈川）

［協賛］　NISSAN　野村総合研究所 Nomura Research Institute　三井不動産グループ MITSUI FUDOSAN GROUP　人を、想う力。街を、想う力。三菱地所グループ　JVCKENWOOD　STARTS スターツ　DNP 大日本印刷　Takashimaya YOKOHAMA　森ビル MORI BUILDING　横浜銀行　UYENO　NTT東日本　大林組　川本工業　Kitamura　崎陽軒　サカタのタネ　TORAY　NEC　原鉄道模型博物館　横浜信用金庫　NEWoMan YOKOHAMA

［協力］　株式会社ACM、京浜急行電鉄株式会社、相鉄グループ、第一織物株式会社、日本郵船歴史博物館
Peatix Japan株式会社、富士ゼロックス株式会社、横浜高速鉄道株式会社、株式会社横浜都市みらい

［助成］　國家文化藝術基金會 NCAF National Culture and Arts Foundation　ARTWAVE TAIWAN INTERNATIONAL ARTS NETWORK　公益財団法人吉野石膏美術振興財団　Institut für Auslandsbeziehungen　INSTITUT FRANÇAIS　オーストリア文化フォーラム

［アーティスト支援］　Australian Government Australia Council for the Arts　文化部 MINISTRY OF CULTURE, TAIWAN　台北駐日経済文化代表処台湾文化センター

［認証］　beyond 2020

# ヨコハマトリエンナーレ2020 実施体制

**アーティスティック・ディレクター**　ラクス・メディア・コレクティヴ

**横浜トリエンナーレ組織委員会**

名誉会長　林　文子（横浜市長）［代表］
前田晃伸（NHK会長）
渡辺雅隆（朝日新聞社代表取締役社長）

委員　近藤誠一（［公財］横浜市芸術文化振興財団理事長）［委員長］
逢坂恵理子（国立新美術館館長）［副委員長］
蔵屋美香（横浜美術館館長）［副委員長］
栫健一郎（NHK事業センター専任部長）
澤　和樹（東京藝術大学学長）
神部　浩（横浜市文化観光局長）
高階秀爾（大原美術館館長）
建畠　晢（多摩美術大学学長）
柄　博子（［独法］国際交流基金理事）
堀越礼子（朝日新聞社執行役員 企画事業担当兼企画事業本部長）

事務局

開催本部長　松元公良**
事務局長　五十嵐誠一*
事務局次長　秋山大介（NHK）
八巻直史（朝日新聞社）

プロジェクト・マネージャー／事務局次長　帆足亜紀*
管理運営マネージャー／事務局次長　梶原　敦**
コミュニケーション・マネージャー　西山有子

-キュレトリアル・チーム
展示統括／キュレーター　内山淳子*
企画統括／キュレーター　木村絵理子*
キュレーター　林　寿美
アシスタント・キュレーター　日比野民蓉*

コーディネーション統括/レジストラー　鈴木祐子
キュレトリアル・コーディネーター（「エピソード」コーディネーター）　武井麻里子
キュレトリアル・コーディネーター（レジストラー）　富安玲子
キュレトリアル・コーディネーター　倉茂なつ子
キュレトリアル・アシスタント　芝田　遥

テクニカル・コーディネーター　山元史朗

アシスタント・プロジェクト・マネージャー　福岡綾子*
プロジェクト・コーディネーター　鈴木慶子
インターン（2019年度）　磯田みのり、今関友里香、富永梨紗子

-アドミニストレーション・チーム
運営担当※　赤崎由香**、今西めぐみ**、小川　哲**、小川宣幸**、小山内幸恵*、木村綾夏**、髙田　聡**
高林真梨子*、土田香織*、鶴見天平**、半澤奈波、平林乙彦**、丸山晶子**、山田卓広**
広報・プロモーション担当　岩田朋子、岩波　藍**、高橋伸佳*、津金澤恭之**、山際　良、米津いつか

**デザイナー**　アリアナ・スパニエ

**空間構成**　MMA inc. 工藤桃子

**ラクス・メディア・コレクティヴ・リサーチ・アシスタント**　カウシャル・アジェイ・サプレイ、今村宙幹（2019年度）、塩﨑恵里香（2019年度）

※総務、経理、会場調整・運営、次世代育成、社会包摂、市民協働、グッズ、ショップ、地域連携等
*横浜美術館（［公財］横浜市芸術文化振興財団）所属　**横浜市所属





# 開催実績

| | 第1回 | 第2回 | 第3回 | 第4回 | 第5回 | 第6回 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開催年 | 2001年 | 2005年 | 2008年 | 2011年 | 2014年 | 2017年 |
| 会期<br>(開場日数) | 9月2日 - 11月11日<br>(67日) | 9月28日 - 12月18日<br>(82日) | 9月13日 - 11月30日<br>(79日) | 8月6日 - 11月6日<br>(83日) | 8月1日 - 11月3日<br>(89日) | 8月4日 - 11月5日<br>(88日) |
| 主会場<br>(有料) | [2会場]<br>・パシフィコ横浜<br>展示ホール<br>・横浜赤レンガ倉庫<br>1号館 | [1会場]<br>・山下ふ頭3号・4号上屋 | [4会場]<br>・新港ピア<br>・日本郵船海岸通倉庫<br>(BankART Studio<br>NYK)<br>・横浜赤レンガ倉庫<br>1号館<br>・三渓園 | [2会場]<br>・横浜美術館<br>・日本郵船海岸通倉庫<br>(BankART Studio<br>NYK) | [2会場]<br>・横浜美術館<br>・新港ピア | [3会場]<br>・横浜美術館<br>・横浜赤レンガ倉庫<br>1号館<br>・横浜市開港記念会館<br>地下 |
| テーマ | メガ・ウェイブ<br>ー新たな総合に向けて | アートサーカス<br>[日常からの跳躍] | TIME CREVASSE<br>ータイムクレヴァスー | OUR MAGIC HOUR<br>ー世界はどこまで知ること<br>ができるか?ー | 華氏451の芸術：<br>世界の中心には<br>忘却の海がある | 島と星座とガラパゴス |
| ディレクター<br>／キュレーター | アーティスティック・<br>ディレクター：<br>河本信治<br>建畠 晢<br>中村信夫<br>南條史生 | 総合ディレクター：<br>川俣 正<br>[キュレーター]<br>天野太郎<br>芹沢高志<br>山野真悟 | 総合ディレクター:<br>水沢 勉<br>[キュレーター]<br>ダニエル・バーンバウム<br>フー・ファン<br>三宅暁子<br>ハンス・ウルリッヒ・オブリスト<br>ベアトリクス・ルフ | 総合ディレクター：<br>逢坂恵理子<br>アーティスティック・<br>ディレクター：<br>三木あき子 | アーティスティック・<br>ディレクター:<br>森村泰昌<br>[アソシエイト]<br>天野太郎<br>大舘奈津子<br>柏木智雄<br>神谷幸江<br>林 寿美 | コ・ディレクター：<br>逢坂恵理子<br>三木あき子<br>柏木智雄 |
| 作家数 | 109作家 | 86作家 | 72作家 | 77組 79名 | 65組 79名 | 38組 1プロジェクト |
| 作品数 | 113件 | 84件 | 66件 | 337件 | 444件 | 344件 |
| 総事業費 | 約7億円 | 約9億円 | 約9億円 | 約9億円 | 約9億円 | 約9億円 |
| 総来場者数 | 約35万人 | 約19万人 | 約55万人 | 約33万人 | 約21万人 | 約26万人 |
| 外国人<br>来場者数 | ー | ー | ー | 約3,000人 | 4,501人 | 7,059人 |
| 中学生以下<br>来場者数 | ー | ー | ー | 24,205人 | 26,381人 | 26,988人 |
| 有料会場<br>来場者数 | 約35万人 ※<br>＊チケットは2日間有効<br>（連続しない日も可）<br>＊未就学児無料 | 約16万人<br>＊チケットは1日に限り有効<br>＊フリーパスあり<br>＊中学生以下無料 | 約31万人 ※<br>＊チケットは2日間有効<br>（連続しない日も可）<br>＊中学生以下無料 | 約30万人 ※<br>＊チケットは1会場1日有効<br>＊中学生以下無料 | 約21万人 ※<br>＊チケットは1会場1日有効<br>＊中学生以下無料 | 約25万人 ※<br>＊チケットは1会場1日有効<br>＊中学生以下無料 |
| チケット<br>販売枚数 | 約17万枚 | 約12万枚 | 約9万枚 | 約17万枚 | 約10万枚 | 約10万枚 |
| メディア<br>露出件数 | 237社以上<br>（うち海外36社以上）<br>＊掲載件数は記録なし | 1,089件<br>（うち海外40件） | 1,233件<br>（うち海外165件） | 1,763件<br>（うち海外139件） | 3,899件<br>（うち海外117件） | 6,923件<br>（うち海外314件） |
| ボランティア<br>登録者数 | 719人 | 1,222人 | 1,510人 | 940人 | 1,631人 | 1,474人 |

※ 第1回、第3回、第4回、第5回、第6回については、有料会場の延べ入場者数

## 横浜トリエンナーレの基本的な考え方

**使命**　横浜トリエンナーレは、我が国を代表する現代アートの国際展として、文化芸術創造都市・横浜の発展をリードするとともに、多様性を受け入れる心豊かな社会の形成に寄与します。

**目標**

**アートでひらく**　ひらかれた現代アートの祭典として、誰もが多様な表現に触れる機会を分野と時代を横断して提供し、世代等を超えた理解を促進します。

**世界とつながる**　ナショナルプロジェクトとして、横浜から新しい価値観と新たな文化を継続的に世界に届け、国際交流と相互理解に貢献 します。

**まちにひろがる**　文化芸術創造都市として築いている、横浜ならではのまちの力と一体的に推進します。

**行動方針**　世界水準　次世代育成　社会包摂　市民参加　祝祭性　賑わいづくりと経済活性化

《プレスお問い合わせ先》

ヨコハマトリエンナーレ2020広報事務局（株式会社プラップジャパン）　担当 : 横澤、本郷、増田
〒107-6033 東京都港区赤坂1-12-32 アーク森ビル33F
E-MAIL : yokotori2020pr@prap.co.jp　TEL : 03-4580-9109（平日10:00〜18:00）

《横浜トリエンナーレ組織委員会お問い合わせ先》

横浜トリエンナーレ組織委員会事務局 広報担当 : 高橋
〒220-0012 横浜市西区みなとみらい3-4-1 横浜美術館内
E-MAIL : press@yokohamatriennale.jp　TEL: 045-663-7232（平日10:00〜18:00）　FAX : 045-681-7606